

「卓越大学院プログラム」中間評価結果

機関名	名古屋大学	整理番号	1810
プログラム名称	未来エレクトロニクス創成加速 DII 協働大学院プログラム		
プログラム責任者	藤巻 朗	プログラムコーディネーター	天野 浩

(評価決定後公表)

<p>(総括評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> S:計画を超えた取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を十分に達成することが期待できる。 <input checked="" type="checkbox"/> A:計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。 <input type="checkbox"/> B:一部で計画と同等又はそれ以上の取組も見られるものの、計画をやや下回る取組もあり、本事業の目的を達成するには、助言等を考慮し、一層の努力が必要である。 <input type="checkbox"/> C:取組に遅れが見られ、一部で十分な成果を得られる見込みがない等、本事業の目的を達成するために当初計画の縮小等の見直しを行う必要がある。見直し後の計画に応じて補助金額の減額が妥当と判断される。 <input type="checkbox"/> D:取組に遅れが見られ、総じて計画を下回る取組であり、支援を打ち切ることが必要である。 <p>[コメント]</p> <p>大学院全体の改革を実現する卓越した学位プログラムの確立については、学内の他3プログラムや新たに開始されたフェロシップ事業、次世代研究者挑戦的研究プログラムを統括する博士課程教育推進機構を立ち上げ、学外メンター制度や非履修生を含むDII 協働プロジェクト及びオンライン教材に代表される本プログラムのグッドプラクティスを全学展開することで共有されており、本プログラムがコアとなり卓越大学院プログラムにとどまらず大学院全体の改革に繋がれているところは評価できる。</p> <p>修了者の高度な「知のプロフェッショナル」としての成長及び活躍の実現性については、履修生が自らの提案を学内だけでなく学外のコンテストに応募し、多数の入賞者を出すという成果を得ていること、並びに学生が自らのキャリアパスに関し、明確なビジョンを有し高いモチベーションをもって履修に臨んでおり、履修生が知のプロフェッショナルとして成長していることが学生との意見交換においても明らかになったことは評価できる。</p> <p>高度な「知のプロフェッショナル」を養成する指導體制の整備については、ガバナンスの見直しを実施し、コーディネーター、運営委員会と各室活動の連携をスムーズに行う体制を整備している。さらに、国内21機関、海外6機関からの協力を得ることで、学外連携や産学官連携による教育、メンターによる専門領域とその周辺領域に関する外部教員（特に企業の学外担当者）による知識や知見の教育・指導體制により研究の専門領域の深耕に加えて学生の視野を広げる取組を進めており、その結果が前述の成長に繋がっている。また、コロナ禍前の短期海外研修や社会課題発見ワークショップなど実践的な教育が学生の成長に大きく寄与しているほか、コロナ禍においてもオンラインで継続するなどの取組は評価できる。</p>

優秀な学生の獲得については、コロナ禍にあるとはいえ年次ごとに履修生、特に応募者が減少傾向にある。広報活動やリクルート活動の工夫がされているところは評価できるが、より一層の本プログラムへの応募者数の増加、更にはこの領域における博士課程進学の魅力の全学発信の工夫が求められる。

世界に通用する確かな質保証システムについては、博士学位審査と並立したプログラム独自の審査(最終審査)を設け、その審査ではDII(Deployer、Innovator、Investigator)それぞれに最適化した独自の修了条件を設定すると同時に、QE1・QE2においては学内担当教員に加え、学外担当者全員(100名)による書類審査、面接審査の2段階評価を実施しており、世界に通用する質保証システムを構築・適切な運用がなされているところが評価できる。

事業の継続・発展については、プログラム責任者、コーディネーター、サブコーディネーターを核とし各室長参加のもと毎月開催される運営会議、大学院全体の改革を統括する博士課程教育推進機構との連絡会議、履修生や連携企業・機関から参加する企業メンターとのコミュニケーションを通じてPDCAサイクルを構築しており、プログラム運用面においてマネジメントをダイナミックにブラッシュアップしているところが評価できる。一方で、活動資金の調達に関しては名古屋大学基金の活用を検討しているところは評価できるが、更なる持続的な資金調達の取組に期待する。